

# 1 事業のアウトライン

1) 事業名	環境学習推進事業	開始年度	H13	終了年度	未定
		最近の事業内容見直し年度			
2) 総合開発計画での事業体系	施策コード 2010301 大項目 / 小項目 / 細項目 快適環境の創造 / 自然保護意識、環境美化意識の高揚				
3) 個別計画での位置付け	「石狩市環境基本計画」				

# 2 事業の内容

1) 事業の目的 何のために	市民の環境に対する関心や理解を深める。
2) 目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	市民が、日常生活において、自然や身近な生活環境に配慮した、環境にやさしい行動を取るように。
3) 事業の方法 どんな手段を講じるのか	1. 一般市民を対象に、自然が残る高岡・五の沢・八の沢地区、石狩浜など主な自然地域で自然観察会を開催し、自然にふれる機会を創出する。 2. 毎年6月の「環境月間」に合わせて環境パネル展、環境施設見学会、海浜地自然観察会を行う。 3. 将来を担う子どもたちを対象として、「紙ポット植樹」(H13石狩小、H14紅南小・八幡小に植樹)や「身近な自然調査」を実施したり、「こどもエコクラブ」の活動推進など、子ども環境学習支援を行う。 4. 子どもたちが環境問題に関心を持ち、感受性や問題意識が育まれるよう「こども環境会議」を開催する。 5. 「環境リーフレット」を作成し、小学校に配布して環境学習の資料等として活用してもらう。
4) 14年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	子ども環境学習の推進
5) 事業の背景・社会状況・他の類似事業など	20世紀の大量生産、大量消費、大量廃棄の生活様式を背景に、温室効果ガスによる地球温暖化や自然破壊が顕著になってきているため、環境に対する意識づくりが必要とされている。
6) 事業の立案や実施などへの市民参加	一部事業の企画、実施において、事業主体として市民参加実績があります。
7) 評価中間公表への市民意見	ふるさと自然塾のような指導者育成事業を継続してほしい。また、自然観察会の参加者募集を学校、地域団体へも呼びかけてはどうか。

# 3 事業に投入した行政資源

項目	H12	H13	H14	H15 予算	H14 事業費の主な内訳	金額(千円)
1) 直接事業費(千円)		2,419	1,132	1,508	環境リーフレット作成経費	420
2) その他の間接経費(千円)					こども環境会議開催経費	475
3) 従事正職員の人件費(千円)		10,030	9,799		自然観察会開催経費その他	237
総事業費(1~3の合計;千円)		12,449	10,931		H14 主な特定財源の内訳	
総事業費中の一般財源(千円)		12,283	10,631		環境保全促進事業助成金	300
市民一人当たり一般財源使用額(円)		221	190		(全国モーターボート競走施行者協議会)	
事務に従事した正職員のべ人数		1.21人	1.19人			

# 4 事業活動の結果

事業活動の結果を示す指標	H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法
自然観察会参加人数(人)	目標値	0	120	120	目標値は、1回あたり30名を見込み設定。(4回開催の延べ人数)
	実績値	0	109	136	
	達成率		90.8%	113.3%	
紙ポット植樹本数(本)	目標値		500	500	目標値は、過去の実績を考慮して設定。
	実績値		100	176	
	達成率		20.0%	35.2%	
	目標値				
	実績値				
	達成率				

## 5 事業の成果

事業名：環境学習推進事業

事業の成果を示す指標		H12	H13	H14	H15	各指標の説明・算定方法	確認方法
意識の浸透度 (%)	目標値				100	今後、アンケート等により自然環境にやさしい行動がとれているか、実態を把握していく。	アンケート・電話による聞き取り調査など
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					
	目標値						
	実績値				目標レベル		
	達成率						
	最終目標	年度に					

## 6 事業の観点別評価

1) 事業活動の状況	[課長評価]	極めて良好	概ね良好	一部問題あり	大きな問題あり
[評価ポイント] 活動結果や活動効率、事業改善等の効果はどうだったか	紙ポット植樹は目標を達成できなかったが、観察会は目標を達成できたことから、概ね良好である。				
2) 有効性・必要性	[課長評価]	有効かつ必要	有効性に疑問あり	必要性に疑問あり	ともに疑問あり
[評価ポイント] その事業は事業目的の達成に効果があるか、また、市民(対象者)に必要とされているか	市民の環境への理解を増進する上で、自然を観察し、実際に触れ、また、日頃の市民の環境活動の実践状況を発表する場の提供は、有効かつ必要である。				
3) 市関与の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] その事業に市が関与する必要があるか、市がどこまで関与するのが適当か	「市環境行動計画」に基づき、行政、事業者、市民の3者が協働して、これからの環境に配慮した社会づくりを進めていくためには、市が率先して市民等に対し、手本を示していくことは一定の妥当性がある。				
4) 事業内容の妥当性	[課長評価]	極めて妥当	一定の妥当性あり	妥当性に疑問あり	妥当性が低い
[評価ポイント] 目指す成果を挙げるためには今の事業内容が適当か、受益と負担の関係に不公平はないか	市民の環境意識を高めていくため、事業内容は概ね妥当であるが、PR方法や経費の最低限の負担の検討も必要。				

## 7 平成14年度事業の総合評価

[評点の意味] A: 極めて良好 B: 良好 C: 可も不可もない D: 問題がある E: 大きな問題がある	[課長評価]	B	[最終評価]	B (前年度)
	本事業では、市民に環境への理解を得るため、地域社会、学校や自然地域で環境に触れる機会を提供し、概ね環境教育・学習を充実、推進できた。		身近な自然を題材にした環境学習や自然塾の開催など参加者から好評であり、さらに広く市民に広げるべきとの意見もあり充実した内容であった。	

## 8 今後の方向性・課題

担当課長評価	より多くの市民、子どもたちの参加が得られる事業展開と、事業をサポートする環境リーダーの育成を図る。また、観察会参加者の最小限の経費負担を今後検討していく必要がある。
最終評価	環境学習は、持続可能な社会づくりへの意識と理解を深める上で重要であり、今後とも学校や、地域での出前講座の内容を充実させて実施していきます。

## 9 平成16年度の方向性

* 担当課長 最終評価	事業内容		
	現状維持	一部見直し	大幅見直し
事業規模	拡大方向	*	
	現状維持		
	縮小方向		
	統合 休・廃止		
上についでの説明	* H13作成の環境リーフレットの改訂のため予算額増。		